

# 提案型自己紹介シート

準備会委員氏名	ページ
青木 章彦 (アキ アキコ)	1
荒木 廣治 (アキヒロル)	2
大野 邦雄 (オノノキオ)	3
大谷津 孟 (オウツ タシ)	4
神宮 由美子 (ジミヤウ ムミコ)	5
陣内 雄次 (ジノウチ ユウジ)	6
高橋 悟 (タカシ サトル)	7
仁平 隆史 (ニハイ タシ)	8
藤原 宏史 (フジハラ ヒロシ)	10
御子貝 荒江 (ミコガイ アライ)	11
三宅 徹治 (ミヤケ テツジ)	12
森本 久子 (モリモト ヒサコ)	13
山形 雅美 (ヤマガタ マサミ)	14

「(仮称)環境パートナーシップ会議」設立準備会 ~提案型自己紹介シート~

<b>氏名</b>	青木章彦
<b>今一番、関心のある環境に関する話題</b>	
<p style="text-align: right;">キーワードは「身の回り」です。</p>	
<b>(仮称)うつのみや環境パートナーシップ会議における協働のあり方</b>	
<p>パートナーシップ会議の環を宇都宮市全体に拡げていくことが大切だと思います。そのためには、この会議を市民の皆さんの目に触れる形で展開する必要があります。</p> <p>「見える協働」と「協働の検証」をしていくべきです。細かい内容は会議の中で詰めていきましょう。</p>	

「(仮称)環境パートナーシップ会議」設立準備会 ～提案型自己紹介シート～

<b>氏名</b>	荒木 廣治
<b>今一番、関心のある環境に関する話題</b>	
<p>瑞穂野地区に住んでおり、自宅に近い江川沿いの雑木林を利用して探鳥会の案内と里山保全活動をしており、これらの活動を通じて次の事柄に関心を持っている。</p> <p>1. 平地林の保全 市北部の長岡樹林地や文化の森は都市計画の中で森林ゾーンと位置づけられ行政によって保護されている。瑞穂野地区には度重なる開発によって減少しているものの現在も文字通りの平地林が点在し、周囲の田畑や水辺とともに広義の里山を形成している。 しかし、そのほとんどは笹が生い茂り放置されたままとなっている。 市内には同様の雑木林が点在しており、住宅地に隣接した雑木林の存在を地域の人々が認識し、日常生活の一部に取り入れて維持してゆくような「しくみ」造りが必要と感じている。 多くの市民がかかわってこれらの雑木林を望ましい姿に再生させ、その面積が拡大し市内に緑の回廊が巡ることを夢に描いている。</p> <p>2. 不法投棄ごみへの対処法は 雑木林へのごみの不法投棄を防ぐ方策は無いのか。投棄されてしまったごみでも、家庭ごみとして処理できるものはボランティアでも対処できるが、粗大ごみや大型家電製品は土地所有者が無関心の時はどう対処することが望ましいのか。</p> <p>3. 生ごみの堆肥化と地元での利用 小中学校で始まった『地産地消給食』を発展させ、地元で作る農作物の肥料を生ごみの堆肥化で循環できないか。山形県長井市が実施している『レインボープラン』のような事業を宇都宮市の農村部でも実施できるのではないかと考えている。</p>	
<b>(仮称)うつのみや環境パートナーシップ会議における協働のあり方</b>	
<p>市民との協働のためには、環境保全に関心のある市民に活動の場を提供すること、そして関心の無い市民に関心を持ってもらうための動機づけが必要である。 そのためには効果的なPRと『参加してみたいくなる』魅力ある活動内容が欠かせない。 パートナーシップ会議では、市民が身近な環境の現状認識を深め、それらを改善しよりよい状態を保つような活動が、多くの地域で自然発生的に出てくるような“種まき”を重点に取り組むこと、そして自発的な活動の芽を育てるようなかわり方が望ましいと考えている。 市民参加型の活動を活性化させるためには、既存の環境活動組織に加えて新たに多くのグループが立ち上がり活動の輪が広がることが重要である。 グループを結成して活動ができるような仕組みとして、例えば市民からの『どこの地区のxxを月に一回清掃する』というような申し出を受け付けてネット上で公開し、賛同者を募って提案者を中心にグループを組織したり、また数人の市民が集まって実施できるような活動項目を市が提示して参加者を募り、グループを組織して活動へ移行する方法が考えられる。 いずれの場合にも行政としては作業の進め方に関するアドバイスをする等して、新たなグループが継続的に活動できるよう支援して行く必要があり、活動を進める上で直面する問題点等についても市民と一緒に考えて解決するような方法が望まれる。 住民参加の活動は、楽しくそして皆が継続してできることが大切であり、ネット上で各グループの活動報告やグループ作りについての呼びかけ、そして各グループの予定や意見の公開等も行うことにより、グループに属さない市民が自分の自由な時に関心のある活動に参加することができ、活動の輪が広がってゆくものと考えている。</p>	

「(仮称)環境パートナーシップ会議」設立準備会 ～提案型自己紹介シート～

氏 名	大野邦雄
<b>今一番、関心のある環境に関する話題</b>	
<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">                 目的 環境保全活動             </div> <div style="display: flex; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     市・市民・事業者 の協働                 </div> <div style="font-size: 2em;">←</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     環境保全の意義徹底 と 環境情報の整理                 </div> </div> </div> <p style="margin-top: 10px;">例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境問題は人智で解決できる？</li> <li>・ ペットボトルのフタ・ラベル</li> <li>・ 残った醤油</li> <li>・ 割り箸</li> <li>・ 受動喫煙、他</li> </ul>	
<b>(仮称)うつのみや環境パートナーシップ会議における協働のあり方</b>	
<p style="text-align: center;">市民</p> <p style="text-align: center;">市</p> <p style="text-align: center;">事業者</p> <p style="text-align: center;">市民グループ</p> <p style="text-align: center;">地域資源の有効利用 市民の活力活用</p> <p style="text-align: center;">調査・学習 提案・提言 啓蒙・啓発 普及・実践</p>	

「(仮称)環境パートナーシップ会議」設立準備会 ~提案型自己紹介シート~

<b>氏名</b>	環境企画課 大谷津課長
<b>今一番、関心のある環境に関する話題</b>	
<p>スローライフ・スローフード・スローウェアなどの言葉を聞いたり，見たりする。 スローライフとは，ゆっくり暮らすことなのか？ 行灯を燃やし炭火で食事を作る暮らしへ戻ることがスローライフか？ そうではない 人間の進化の速度を止めることはできない。 人々が今までどおり生きていくには更なる技術の加速が必要で，環境問題やエネルギー， 食糧問題の解決にも技術の進歩が必要。 大切なのは，家族や友人だけでなく，他の人々や人間以外の生物や植物を思う気持ち ...人類一人ひとりの意識の進化が求められている時代 * 自然の環境の中で，ゆっくり育てられた，安全な食材を丁寧に調理し，ゆっくり味わうと いう，スローフードのコンセプトに端を発する， スローライフの生活設計に関心を持っている。</p>	
<b>(仮称)うつのみや環境パートナーシップ会議における協働のあり方</b>	
<b>原則1 行政と市民・事業者が上下関係ではなく，対等で各々が自由に判断できる対等関係</b> 市民や事業者とわれわれ行政が「対等な関係」をつくるのが協働の前提となる。 今後，様々な環境問題を解決する主体は，行政だけが担うのではない。市民・事業者と行政のそれぞれが，環境保全活動の主体となり，「対等な関係」で，協力しながら取り組んでいくことが重要である。 * 環境パートナーシップ会議での活動内容を企画・立案（plan）する段階での対等関係 * 活動を実施（do）する際の対等関係 * 活動内容に対する評価（check，action）を行う際の対等関係	
<b>原則2 市民，事業者，行政の信頼関係をつくっていくための情報共有</b> 行政や事業者は，その活動内容を積極的に公表するなど情報提供を充実し，透明性の高い施策・事業の実施に努めるとともに，その成果を客観的な数値として公開する。 また，一方的な情報提供ばかりでなく，市民とのコミュニケーションを通じて，お互いを理解していくため，意見交換や情報交換を積極的に行なっていく。 * 活動を行うために必要となる情報の共有 * 現在進行している活動に関する情報の共有 * これからやろうとしている活動に関する情報の共有	

「(仮称)環境パートナーシップ会議」設立準備会 ~提案型自己紹介シート~

<b>氏名</b>	神宮 由美子
<b>今一番、関心のある環境に関する話題</b>	
<p>・市民のゴミに対するする甘え 最近、市内で黄色い紙の付いた違反のゴミ袋が目につきます。 ペットボトルをはじめとする蓋取りの違反ゴミの袋だと思います。 `自分の家から外へ出してしまうえば誰かが何とかしてくれる` こんな市民の態度に対する、行政の厳しい態度の現れと小気味よく見えています。 ペットボトルをこんなに使う生活も考えものですし、街の中の美化から考えたら、 眉をひそめる事かも知れませんが、少し辛抱して教育すべきでしょう。 市民も行政も守るべき事は、きちんと守る姿勢。それが宇都宮市民の誇りと考えたいです。 ゴミから学ぶ市民の誇りと考えていきたいものです。・・・</p>	
<b>(仮称)うつのみや環境パートナーシップ会議における協働のあり方</b>	
<p>・環境＝ゴミだけではないとは思いますが、一生活者として一番簡単にできる環境への思いやりではないでしょうか。市民ゴミ学を徹底するべきと考えます。 市民ゴミ学・・・市民も行政も事業者もそれぞれの立場でやるべき事はきちんとすること 今更、何の提案もなし、今までに言い尽くされたことを実行するだけではないでしょうか。</p>	

「(仮称)環境パートナーシップ会議」設立準備会 ～提案型自己紹介シート～

<b>氏 名</b>	陣内 雄次
<b>今一番、関心のある環境に関する話題</b>	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「環境」といった場合、ややもすると自然環境のみに耳目が向きやすいのですが、「文化」環境、「社会」環境にも留意する必要が重要と考えます。</li><li>・ 現在関心のあるのは持続可能（住み続けることのできる）な「まちづくり」であり、「まち環境」であり、「まちづくり学習」です。特に中心市街地の衰退は深刻です。実は、郊外住宅団地も高齢化しているところが多く、今後は「見捨てられた」郊外住宅団地がでてくることもあり得る状況にあります。</li><li>・ 「住み続けることのできる」といった場合、人間ばかりでなく、動物や植物など人間以外の生命体も対象となることはいうまでもありません。</li><li>・ であるならば、都心の緑化なども含めた環境共生で持続可能な「まちづくり」というものが求められているのです。</li></ul>	
<b>(仮称)うつのみや環境パートナーシップ会議における協働のあり方</b>	
<p>互いにむやみに依存する、文句を言い合う、中傷するということではだめ。 建設的な議論をする。(基本的な社会人としてのマナーも分かっていない人がたまにいる。平気で遅れて来る。携帯電話に会議中に出る。人の発言中に隣の人と話しこんで耳を傾けない。などなど)</p> <p>建設的な議論のためにも、情報の共有化が重要。また、個々人がファシリテーターとしての能力を伸ばす努力も必要。</p> <p>それぞれの主体の得意とするところをのばし、不得手なところを補い合うという関係性が重要(=適正な役割分担と責務)。</p> <p>その基本となるものは、互いを尊敬するという気持ち。</p> <p>それぞれの主体は異なる「文化」を持っている。したがって、互いに理解しあうという努力が必要。(異質性を排除することではだめ。)</p>	

「(仮称)環境パートナーシップ会議」設立準備会 ～提案型自己紹介シート～

<b>氏 名</b>	環境保全課長 高橋 悟
<b>今一番、関心のある環境に関する話題</b>	
<p>地産地消が進めば、環境負荷は低減する。</p> <p>最近よく地産地消という言葉聞く。主に農産物について、安くて新鮮、安全、生産者の顔が見えるなど「地産地消」運動が広がりをみせている。しかしこれは、経済循環だけの問題ではなく、自然循環にも寄与するうえ、物の移動距離が短くなってトラック輸送に伴う排気ガスも減少する。地域産物を地域で消費し、食品などの生ごみはリサイクルしていく、木材資源などは地域で積極的に利用し、間伐材もバイオマス資源として利用する。「地産地消」がすすめば、農業が復活し、林業荒廃が防止され、郷土愛が育まれる。そしてそのことは、地域を見直して水や大気の大切さを再認識させ、資源の循環、廃棄物の減量化に繋がるばかりでなく、地球温暖化の防止にも繋がっていく。</p> <p>これまでの大量生産、大量輸送、大量消費の生活パターンを立ち止まって考え直し、好きなときに好きなものが食べられなくても、欲しい物がすぐに手に入らなくても、少し不便を感じても、緑や自然や地球のためになるのであればガマンするのは当然であるという価値観に換えていくことが求められている。</p>	
<b>(仮称)うつのみや環境パートナーシップ会議における協働のあり方</b>	
<p>「協働」という言葉が最近よく使われるようになった。この意味は「主体」「客体」という関係でなく、市民、事業者、行政のすべてが「主体」となって「働く」ということではないかと理解している。</p> <p>しかし全員が「主体」と言っても、具体的に活動を行っていくためには、「役割分担」を明確にしておく必要がある。</p> <p>環境パートナーシップ会議においては、行政が立案し、市民・事業者が参加、協力するという、これまでの有りがちなパターンではない、新しい「役割分担」によって活動が行われるべきである。</p> <p>具体的には、事業を行うときのマンパワー、資金、物品、場所の提供などの役割分担の明確化や事業の結果や責任について、役割分担との関係でどの様に考えるべきか検討しておく必要がある。</p> <p>また、環境保全活動を行おうとする場合、市民・事業者は「参加」するのではなく、「参画」する役割(企画、立案段階から参加)をもつべきであると考えている。「役割分担」とも関連するが、事業の立案、実施、評価、改善というすべての過程において市民・事業者が「参画」することが「協働」であり、環境パートナーシップ会議のあるべき姿であると考えている。</p>	

「(仮称)環境パートナーシップ会議」設立準備会 ～提案型自己紹介シート～

<b>氏名</b>	仁平 隆史
<b>今一番、関心のある環境に関する話題</b>	
最大の関心は「環境保全行動を動かす社会的な仕組み」づくりです。	
*今、国・県・市町村の行政ではコミュニティ再生・パートナーシップ連携・ボランティア参加等の行政・地域・市民が連携する諸施策が展開されています。背景には価値観の変化に伴う市民ニーズが多様化し、人口減少・税収減による行政サービスの財政的限界が見え、従来の仕組みでは対応し切れないことがあるでしょう。社会の変化に合わせて、行政・企業・市民・団体の役割分担や費用負担等社会の隙間を保管する新たな仕組みが必要な時代と考えています。	
*環境保全も同様です。生き物・水等の環境基盤(ストック)は保護だけでなく自らが再生産できる自然再生が必要になり、地球温暖化や廃棄物処理等の環境排出(フロー)では生産～消費～廃棄の使い捨てから再利用・循環する新たな仕組みが必要です。環境保全は排出削減や節約するだけでなく、環境を再生・循環させる行動を動かす、社会的な仕組みづくりが重要と考えています。	
<b>(仮称)うつのみや環境パートナーシップ会議における協働のあり方</b>	
会議は次のような「合意し・行動を連携する組織」をイメージしています。	
*まず、会議は何をするのか(会議の役割を明確に) 会議は「環境基本計画を実現するため、市・事業者・市民が連携・協力しながら、具体的な環境保全活動として取り組んで行く母体組織」であり、協働を象徴する「合意し・行動を連携する組織」と考えます。行動するメンバーを得るには、具体的に何をする会議なのか、役割を明確に伝える必要があります。 たとえば次の3つの役割(案)が考えられます。	
環境行動を啓蒙普及する役割(市施策・イベントへの参加) 環境教育の出前・環境フェアの開催・市版ISOの認定等の啓蒙普及への参加を合意し、実行ワーキングを形成、協力等できる役割を分担連携する。	
環境を改善する協働事業を推進する役割(プロジェクト事業の推進) 生ゴミコンポスト化と有機農業利用・モデル地域の生き物再生等環境保全事業を企画し、参画者が役割分担するプロジェクト事業化に展開する。	
環境情報を交流する役割(行動ノウハウの交流) 環境情報や改善技術を持つメンバーが、テーマ別の発表・ワークショップを開催(会議は共催)し、関係者・市民とのノウハウ交流を拡大する。	

\* 会議にどう関わるか（メンバーの関わり方）

環境課題は産業・生活に関わる行動の全てに繋がるため、解決する環境保全行動には様々な主体（果たすべき役割）の関わりが必要になります。たとえば、市役所（環境保全目標の施策化・交流センター等の場の提供）、事業者（環境会計やISO取得等環境マネジメント、改善技術）、NPO等（特定目的毎の自立活動ノウハウ）があり、個々の市民（廃棄物分別・省エネの工夫）、コミュニティ組織（活動への地域連携意識）が加わります。しかし、単に幅広く義務的参加を得るだけでは散逸し、構成を固定化すれば硬直化に繋がります。

まず、会議はテーマを明示（啓蒙普及・プロジェクト推進・ノウハウ交流の行動）し、核となるメンバー参加から始めることが必要でしょう。その上で、テーマ毎に出来る役割に賛同する団体との連携、義務にしない期間での市民ボランティア参加や学生インターンシップ等柔軟な関わり方が考えられます。

\* 協働をどう進めるか（運営のあり方）

協働は精神論的造語でしょうが、具体的な形として示すことが必要でしょう。たとえば、会議の運営では、次のような協働の形づくりが考えられます。

行動参加

従来のイベント、新たな啓蒙普及やノウハウ交流等への行動参加は決議による義務的役割参加でなく、夫々の自主的参加を得ることなのでしょう。会議が行なうのは参加したい魅力的な協働のプログラムづくりにあると考えます。

行動実施

啓蒙普及（市施策）・ノウハウ交流（構成員発表）の明確な役割分担（主体者と協力者）に対し、環境改善事業化では協働の種まきと芽出しです。会議の役割は、市・事業者・NPOが対等に連携する協働のシナリオ（役割・協定・費用負担）を提示し、事業グループを立ち上げるまでかも知れません。

費用負担

会議運営の費用負担も協働のテーマです。構成員・ボランティア参加は原則無償（実費支弁）、啓蒙普及・ノウハウ交流は主催者負担（期間限定助成）としても、プロジェクト化は事業費用を得る協働の仕組みが必要でしょう。

会議運営

啓蒙普及・プロジェクト推進・ノウハウ交流の3委員会ではテーマを検討、テーマ実施はワーキング参加者による協働作業（役割分担）なのでしょう。また、事務局作業へのボランティア参加が「協働の象徴」かもしれません。

「(仮称)環境パートナーシップ会議」設立準備会 ～提案型自己紹介シート～

<b>氏名</b>	<b>藤原宏史</b>
<b>今一番、関心のある環境に関する話題</b>	
<p>“大量生産、大量消費”社会の反省。 バブル時代の価値観からの脱却 “もの”の大切さ、“ものづくり”の重要さ、の認識。 1989年は地球環境元年と言われた。それから15年が経過し、その間バブルの絶頂から不況のどん底へと日本経済は転がり落ちた。しかし我々は相変わらずバブル時の考え方を換えられずにいる。あの時の夢の実現を願って。 環境を考えると、真実を探求する事に通じる。何が正しく何が価値があるのか、そう問い掛けることから始めねばなるまい。そしてそれを原点として、今自分で考えられることから始めようとする事である。 そんな人間を育てる社会の構築、それが私の最も大きな関心事である。</p>	
<b>(仮称)うつのみや環境パートナーシップ会議における協働のあり方</b>	
<p>上記したような社会の実現に向けてのテーマの設定。各分野における情報の交換、制度等の検討。青少年への啓蒙、教育。 例えば“宇都宮方式”と言った制度の確立。</p>	

「(仮称)環境パートナーシップ会議」設立準備会 ~提案型自己紹介シート~

氏 名	御子貝 荒江
<b>今一番、関心のある環境に関する話題</b>	
<p>森林が伐採された後地、又荒野に、杉、桧等が植林されている現状を見て、農業はもちろん、水の問題が真剣に考えられていないことを不安に思う。</p> <p>ブナの林とは言わなくても、アラ、クヌギ、もみじ等の落葉樹を植え、四季折々の風情を楽しみ、その下で散策する高齢者、又、明日を担う子供達の環境教育をぜひ協議していきたい。</p>	
<b>(仮称)うつのみや環境パートナーシップ会議における協働のあり方</b>	
<p>それぞれの立場で意見を出し合い、他県の実例なども参考にし、現場とかけ離れない位置で協議されていくことを希望します。</p>	

「(仮称)環境パートナーシップ会議」設立準備会 ～提案型自己紹介シート～

<b>氏名</b>	富士重工業株式会社 宇都宮製作所 三宅 徹治
<b>今一番、関心のある環境に関する話題</b>	
<u>循環型経済システムの視点をもった環境活動</u> 環境活動が呼ばれて久しい。これまでの間、市民も企業も「紙ゴミ電気の削減」に取り組んできており、それなりの成果を上げている。しかし、この活動は部分最適の色合いが強く、この活動だけではその行き着く先は、「人は何もしない・霞を喰っているのが環境に最もやさしい」ということになってしまう。 社会経済は、市民・企業・行政が相互に関係をもち循環システムを構築している。これら全体が環境の切り口から、やさしい関係をもっているかという全体最適の視点で、それぞれが役割を果たしていくことが望まれる社会であると考え。 これを実現するうまい手法を持ち合わせてはいないが、ものづくりにおけるLCA(ライフサイクル・アセスメント)は一つのヒントであると思う。これからの会議を通じて勉強していきたいと思っているテーマである。	
<b>(仮称)うつのみや環境パートナーシップ会議における協働のあり方</b>	
<u>喫茶店のカウンターに座る隣同士のような関係</u> 環境パートナーシップ会議の存在理由は、宇都宮市環境基本計画を実現するためにPDCAをしっかりと回すことであると認識している。特に実行段階をサポートする大きな役割を担っている。 その実施にあたっては、より多くの人・団体が参画し協働することが大切でそのことが大きな力になる。その各主体間の協働のあり方は次のようありたいと考える。 目指すべき方向を合わせる。 お互いに良く知り合い、情報を共有化する。 それぞれが特徴を活かし、参画できる場面で参加する。 協働とは、喫茶店のカウンターに座る隣同士のようなもので、向かい合って互いに詮索するのではなく、隣同士が同じ話題で熱っぽく語り合う関係であり、一人でも複数でも参加できる包容力を持ったものでなければならない。	

「(仮称)環境パートナーシップ会議」設立準備会 ~提案型自己紹介シート~

氏 名 森本 久子(うつのみや「地球村」代表・環境カウンセラー)

**今一番、関心のある環境に関する話題**

最近、子どもたちの悲しいニュースが多くなってきています。一母親の立場でも、暗澹とした気持ちになります。環境に携わる一人として、今待ったなしの状態にあるのが化学物質に対する対策だと思っています。最近まで野放し状態だった部門ですが、栃木県環境カウンセラー協会は国の PRTR 法にいち早く対策を打ち出しました。環境カウンセラーによる事業者むけ指導者の養成です。今後は、生活者サイドにむけての対策も早急に打ち出さなくてはならなくなるでしょう。

私は、環境問題に取り組む以前、障害児教育の分野から子どもの成長・発達に必要な様々な要因を研究してきました。当時から添加物や化学物質による脳や精神破壊の影響が懸念されつつ30年前となんら変わらない無対策のままです。これ以上未来を預けることも達の健康や、成長を妨げる環境悪化を見逃すわけにはいきません。ダイオキシンや環境ホルモンの問題は社会でも認知されるようになってはきましたが、まだまだ手付かずの状態です。ゴミ問題や水質・土壌汚染問題、安全な食物、に大きな影響を与えている有害物質への有効な対策を提示させていただきたいと思っています。

国の基準をクリアーしているから安心、すぐに毒性が表面化しないから対策は要らないといった考え方はこれからの行政にはあってはなりません。環境はあくまでも持続可能な街づくりの基本だと思っています。

**(仮称)うつのみや環境パートナーシップ会議における協働のあり方**

5000のNGOを統率するカナダの代表の方が、協働に必要なものは第一にお互いの尊敬、第二に信頼、第三に協力、第四に友情(愛)だと明言されました。これはどのような集まりにも当てはまります。この会議でもお互いがメンバーの一人一人のそれまでの業績に敬意を表するとともに、其々の方の持っている魅力や情報を引き出すことも、有効な施策を生み出す上で必要な要件であると思います。

それが信頼関係のもとに意見の応酬が活発化される所以でしょう。

さらに、会議においては共通認識として、「宇都宮市が環境に配慮された活気のある街づくりになるよう努力する。」を常に参加者が肝に銘ずることが大切だと思います。

大事なことは、何事も出来ないことはない。他でやったことがないからと諦めるのではなく、何故出来ないかを探ってみる、勇気と英断が必要だと思います。

そのために、全員が情報の共有化が不可欠です。其々の得意分野はあっても、その範疇でしか予測や判断が出来ない状況が過去に数多くあったと認識しています。そのためにその専門の方々の事前ミニレクチャーの存在を提案します。何が問題で、どうしたらいいのか活発な意見交換が不可欠だと思います。環境基本計画がどこの都市でも同じように、絵に描いた餅にならないために、今回の宇都宮の会議に私自身も大変期待しています。

「(仮称)環境パートナーシップ会議」設立準備会 ～提案型自己紹介シート～

<b>氏名</b>	山形 雅美
<b>今一番、関心のある環境に関する話題</b>	
<p>自動車の排気が問題視され、首都圏では特に、ディーゼル車の排気が規制されるようになりました。この話題を耳にするようになってから、温暖化を促し、人体にも害を与えるというディーゼル車の排気がとても気になります。</p> <p>私たちの暮らす栃木県では大気汚染はそれほど深刻ではなく、まだ対策はされていないようですが、公共の交通機関が未発達で、自動車への依存率が高い私たちの生活の中でも検討が必要ではないでしょうか。</p> <p>また普段、自動車を当たり前に使ってしまいがちですが、この交通手段を電車やバスに変えることができたら、私たちの暮らす街の大気を最悪の状態にすることなく、より住みやすい、子供やお年寄りにもやさしい、街へと変わって行くのではないのでしょうか。これからの新交通システムに大いに期待したいです。</p>	
<b>(仮称)うつのみや環境パートナーシップ会議における協働のあり方</b>	
<p>地球環境を守っていく上で大切なことは、自然の美しさや偉大さを知ることだと思っています。</p> <p>都市化された街で生まれ育ってしまった私たちは、そのことを知らずに生きてきてしまったようです。自然を知り、それを守って行く事を理解することが、一番の解決策であると思います。</p> <p>市民、事業者、行政それぞれの立場は違っても、その立場である前に「地球で暮らす一員」ということで、同じ気持ちになって取り組んでいければ・・・と願っております。</p> <p>立場の違うもの同士ですが、互いの考えを理解し合いながらも、今まで最優先されてきた、利益や豊かさや便利さを、環境のことに置き換えて考えられるようにして行きたいです。</p> <p>協働していく上で、それぞれの立場を最大限に活用して、市民のたくさんの人に、興味をもってもらえるような取り組みを広めて行ければと考えています。</p>	